

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	15-039	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Consumption of salted meat and its interactions with alcohol drinking and tobacco smoking on esophageal squamous-cell carcinoma. 食道扁平上皮癌における塩漬け肉の摂取と飲酒および喫煙との交互作用		
<b>執筆者</b>		
Lin S, Wang X, Huang C, Liu X, Zhao J, Yu IT, Christiani DC.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Cancer. 2015 Aug 1;137(3):582-9. doi: 10.1002/ijc.29406.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
食道がん, 塩漬け肉, アルコール飲酒, 喫煙, 交互作用, 高リスク者		25544988
<b>要 旨</b>		
<b>目的:</b> 食道がん(EC)は世界で最も一般的ながんの1つであり、特に発展途上国において発症率と死亡率が高い。中国ではECの9割以上は食道扁平上皮癌(ESCC)である。飲酒と喫煙はESCCの確立したリスク因子である。本研究では中国におけるESCCの高発症地域において塩漬け肉の摂取量とESCCの関連と、飲酒・喫煙との交互作用を検討した。		
<b>方法:</b> EC発症の多い中国塩亭県において一般集団のケースコントロール研究を行った。ESCC症例は2011年6月から2013年5月の間に主要な地域の腫瘍病院から集めた。症例群942症例はESCC初かつ同地域に15年以上居住している40~70歳の男女とし、年齢・性別をマッチングした同数の対照群と比較検討した。食事摂取状況は妥当性を確認した食物摂取頻度調査にて、飲酒・喫煙状況は面接にて得た。条件付きロジスティック回帰分析を用いて、塩漬け肉とESCCの関連及び飲酒と喫煙の交互作用について交絡要因を調整し検討した。		
<b>結果:</b> 両群の平均は年齢60歳で男性割合は71%だった。2群間を比較し、症例群は有意にがんの家族歴が多く(p=0.003)、喫煙量や飲酒量が高かった(両方p<0.001)。塩漬け肉の平均摂取量(g/週)は症例群が176gで対照群が96gであった(p<0.001)。さらに症例群は保存や塩漬けた野菜の平均摂取量が高く(p<0.001, p=0.012)、新鮮な野菜や果物の摂取頻度は低かった(両方p<0.001)。塩漬け肉の摂取頻度、1回あたりの摂取量、週の平均摂取量が多いほど、ESCCは有意に増加した。週50gの塩漬け肉の摂取によりESCCのリスクは18%(95%信頼区間(CI): 1.13-1.23)増加した。塩漬け肉を摂取しないものと比べ、多く摂取する者におけるESCC発症リスクとの交互作用を表すSynergy Index(SI)は、飲酒者は1.91(95%CI: 1.15-3.36)、喫煙者はSI2.37(同1.57-3.92)であった。塩漬け肉の摂取、飲酒、喫煙の習慣がある者のESCC発症ORは29.27 (95%CI: 13.21-64.89) と高かった。		
<b>結論:</b> 本研究は塩漬け肉の摂取量とESCCとの強い関連を示した。塩漬け肉の摂取に加えて、飲酒または喫煙、さらに両方使用により、それぞれのリスクの相加分を超える関連を示した。したがって禁煙と禁酒・節酒教育が重要である。また、飲酒者と喫煙者においては、塩漬け肉の摂取量を減らすことによりESCCのコントロールと予防が期待できる。		